

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島																		
病害虫名	① 菌核病																				
11月の発生量 (現況)	(発生なし)並																				
12月の増減傾向	↗																				
増減傾向の根拠	今後 1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。																				
発生量の根拠 (調査結果)																					
<ul style="list-style-type: none"> 11月下旬の調査の結果、発病株率は0% (前年0%、平年0%) と平年並であった。 																					
<p>(今年のデータ)</p> <table border="1"> <caption>菌核病の発病率 (%)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>今年 (2017)</th> <th>平年 (2010-2016)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>1.8%</td> <td>1.8%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>1.8%</td> <td>1.5%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1.0%</td> <td>1.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>菌核病の発病推移</p>				月	今年 (2017)	平年 (2010-2016)	11	0%	0%	12	0%	0%	1	1.8%	1.8%	2	1.8%	1.5%	3	1.0%	1.0%
月	今年 (2017)	平年 (2010-2016)																			
11	0%	0%																			
12	0%	0%																			
1	1.8%	1.8%																			
2	1.8%	1.5%																			
3	1.0%	1.0%																			
<p>(過去2年のデータ)</p> <table border="1"> <caption>菌核病の発病率 (%)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2015年</th> <th>2016年</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0%</td> <td>3.2%</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2.0%</td> <td>0%</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0%</td> <td>0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>菌核病の発病推移</p>				月	2015年	2016年	11	0%	0%	12	0%	0%	1	0%	3.2%	2	2.0%	0%	3	0%	0%
月	2015年	2016年																			
11	0%	0%																			
12	0%	0%																			
1	0%	3.2%																			
2	2.0%	0%																			
3	0%	0%																			
防除のポイント																					
<ul style="list-style-type: none"> 発病部位は、菌核が形成される前に早めに除去し、ビニール袋に入れるなどして場外へ持ち出し処分する。 多湿条件下で発生しやすいので、老葉病葉は取り除き透光通風をよくする。 																					

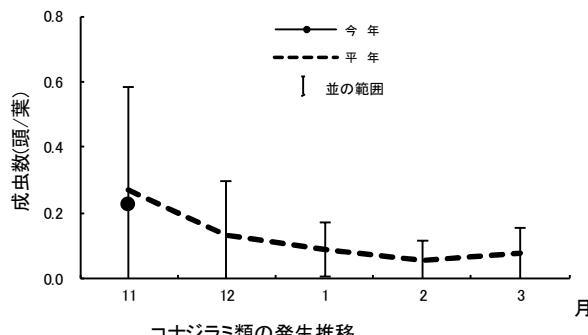
平成 29 年度

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	タバココナジラミ		
11月の発生量 (現況)	並		
12月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。		

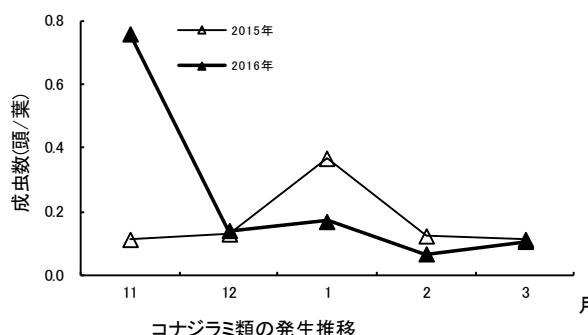
発生量の根拠 (調査結果)

- 11月下旬の調査の結果、葉当たり虫数は0.2頭（前年0.8頭、平年0.3頭）と平年並であった。

(今年のデータ)



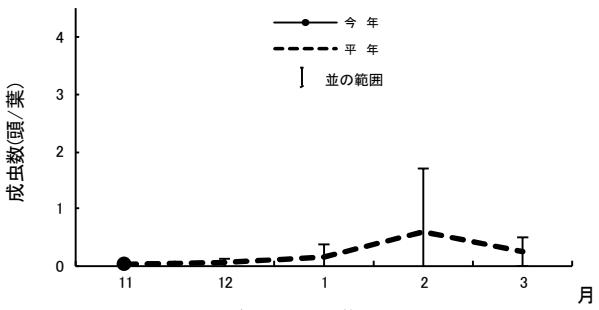
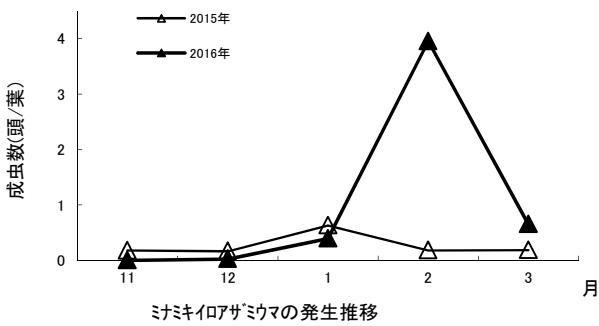
(過去2年のデータ)



防除のポイント

- ほ場周辺の雑草は発生源になるので除去する。
- 本種はさやの白化を引き起こすので、出入り口の防虫ネットを二重にするなどして、施設内への侵入を防止する。
- 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
また、薬剤抵抗性の発達しにくい気門封鎖剤や微生物農薬を使用する。

平成 29 年度

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島																		
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ																				
11月の発生量 (現況)	並																				
12月の増減傾向	→																				
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。																				
発生量の根拠 (調査結果)																					
<ul style="list-style-type: none"> 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.1頭未満（前年0頭、平年0.1頭未満）と平年並であった。 																					
(今年のデータ)																					
 <p>ミナミキイロアザミウマの発生推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>今年 (頭/葉)</th> <th>平年 (頭/葉)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>11</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>12</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>1</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>2</td><td>0.5</td><td>0.5</td></tr> <tr><td>3</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr> </tbody> </table>				月	今年 (頭/葉)	平年 (頭/葉)	11	0.1	0.1	12	0.1	0.1	1	0.1	0.1	2	0.5	0.5	3	0.1	0.1
月	今年 (頭/葉)	平年 (頭/葉)																			
11	0.1	0.1																			
12	0.1	0.1																			
1	0.1	0.1																			
2	0.5	0.5																			
3	0.1	0.1																			
(過去2年のデータ)																					
 <p>ミナミキイロアザミウマの発生推移</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2015年 (頭/葉)</th> <th>2016年 (頭/葉)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>11</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>12</td><td>0.1</td><td>0.1</td></tr> <tr><td>1</td><td>0.5</td><td>0.5</td></tr> <tr><td>2</td><td>0.1</td><td>4.0</td></tr> <tr><td>3</td><td>0.1</td><td>0.5</td></tr> </tbody> </table>				月	2015年 (頭/葉)	2016年 (頭/葉)	11	0.1	0.1	12	0.1	0.1	1	0.5	0.5	2	0.1	4.0	3	0.1	0.5
月	2015年 (頭/葉)	2016年 (頭/葉)																			
11	0.1	0.1																			
12	0.1	0.1																			
1	0.5	0.5																			
2	0.1	4.0																			
3	0.1	0.5																			
防除のポイント																					
<ul style="list-style-type: none"> 施設の出入口には二重カーテンなどを設置し、本種の侵入を防ぐ。 施設周辺の雑草は本種の発生源となるので、除草を行う。 多発すると防除が困難になるので、発生初期の防除を徹底する。 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。 																					

平成 29 年度

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島																		
病害虫名	ハモグリバエ類																				
11月の発生量 (現況)	並																				
12月の増減傾向	→																				
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。																				
発生量の根拠 (調査結果)																					
<ul style="list-style-type: none"> 11月下旬の調査の結果、寄生葉率は0.1%未満（前年7.5%、平年7.3%）と平年並であった。 																					
<p>(今年のデータ)</p> <table border="1"> <caption>ハモグリバエ類の発生推移 (今年のデータ)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>今年 (%)</th> <th>平年 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>0</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>0</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>3</td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>4</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>				月	今年 (%)	平年 (%)	11	0	8	12	0	8	1	3	5	2	4	4	3	4	3
月	今年 (%)	平年 (%)																			
11	0	8																			
12	0	8																			
1	3	5																			
2	4	4																			
3	4	3																			
<p>(過去2年のデータ)</p> <table border="1"> <caption>ハモグリバエ類の発生推移 (過去2年のデータ)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2015年 (%)</th> <th>2016年 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>27</td> <td>8</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>19</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>3</td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>2</td> <td>14</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>1</td> <td>7</td> </tr> </tbody> </table>				月	2015年 (%)	2016年 (%)	11	27	8	12	19	0	1	3	9	2	2	14	3	1	7
月	2015年 (%)	2016年 (%)																			
11	27	8																			
12	19	0																			
1	3	9																			
2	2	14																			
3	1	7																			
防除のポイント																					
<ul style="list-style-type: none"> 摘葉等による残さは成虫の発生源となるので、ビニール袋に入れるなどして、ほ場外に持ち出し処分する。 本種は薬剤抵抗性が発達し、また野外に多数の在来天敵が存在することから、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。 																					



平成 29 年度

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島																		
病害虫名	ハダニ類																				
11月の発生量 (現況)	(発生なし)並																				
12月の増減傾向	→																				
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。																				
発生量の根拠 (調査結果)																					
<ul style="list-style-type: none"> 11月下旬の調査の結果、葉当たり雌成虫数は0頭（前年0頭、平年0.1頭未満）と平年並であった。 																					
(今年のデータ)																					
<table border="1"> <caption>ハダニ類の発生推移 (今年のデータ)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>今 年 (頭/葉)</th> <th>平 年 (頭/葉)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>0.00</td> <td>0.02</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>0.00</td> <td>0.04</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0.00</td> <td>0.08</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0.00</td> <td>0.02</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0.12</td> <td>0.12</td> </tr> </tbody> </table>				月	今 年 (頭/葉)	平 年 (頭/葉)	11	0.00	0.02	12	0.00	0.04	1	0.00	0.08	2	0.00	0.02	3	0.12	0.12
月	今 年 (頭/葉)	平 年 (頭/葉)																			
11	0.00	0.02																			
12	0.00	0.04																			
1	0.00	0.08																			
2	0.00	0.02																			
3	0.12	0.12																			
(過去2年のデータ)																					
<table border="1"> <caption>ハダニ類の発生推移 (過去2年のデータ)</caption> <thead> <tr> <th>月</th> <th>2015年 (頭/葉)</th> <th>2016年 (頭/葉)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>11</td> <td>0.10</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>1</td> <td>0.02</td> <td>0.08</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>0.00</td> <td>0.00</td> </tr> </tbody> </table>				月	2015年 (頭/葉)	2016年 (頭/葉)	11	0.10	0.00	12	0.00	0.00	1	0.02	0.08	2	0.00	0.00	3	0.00	0.00
月	2015年 (頭/葉)	2016年 (頭/葉)																			
11	0.10	0.00																			
12	0.00	0.00																			
1	0.02	0.08																			
2	0.00	0.00																			
3	0.00	0.00																			
防除のポイント																					
<ul style="list-style-type: none"> 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。 葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。 																					

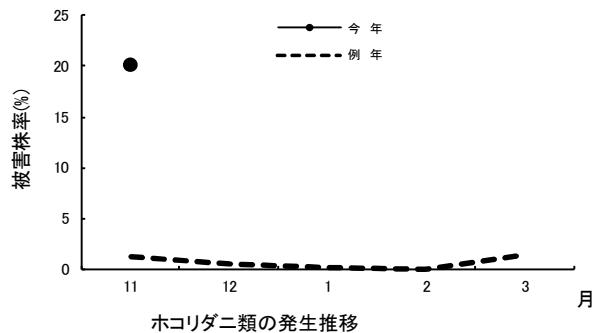
平成 29 年度

作物	さやいんげん (平張)	地域	沖縄群島
病害虫名	ホコリダニ類		
11月の発生量 (現況)	判定不可		
12月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	今後 1か月の気温が低い見通しから、11月より発生量は減少すると考えられる。		

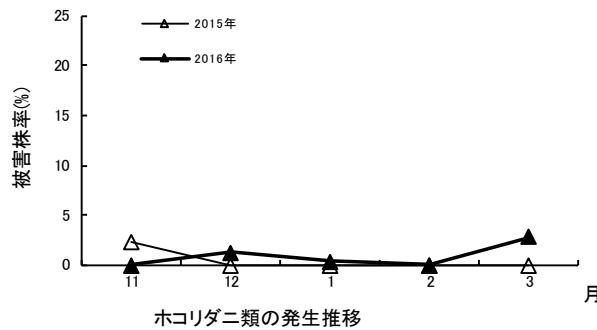
発生量の根拠 (調査結果)

- 11月下旬の調査の結果、被害株率は20.0% (前年0%、例年1.3%) であった。

(今年のデータ)



(過去2年のデータ)



防除のポイント

- 20°Cでの卵から成虫までの発育期間は13~17日と短く、短期間のうちに高密度になりやすいため、早期発見・早期防除に努める。
- 薬剤が到達しにくい生長点付近や未展開葉に潜っているため、薬散は葉裏へ丁寧に行う。
- ほ場内外に寄主植物(主にナス科雑草)が無いよう除草に努める。